



今月のテーマは……

「アデノイド」ってなに？

平成 25 年 7 月 24 日発行

「アデノイドが大きい」……このような言葉を聞いたことはありませんか？

アデノイドとは鼻のずっと奥にあるリンパ組織です。アデノイドは乳児期以降に生理的に大きくなり、5歳前後で大きさが最高となります。そして8歳を過ぎると次第に小さくなり、18〜20歳ではほとんど認められなくなります。子供の頃はみんなアデノイドがあったわけですね。

▼アデノイドってなんのためにあるの？

アデノイドは呼吸によって吸い込まれた空気が鼻腔(下図)を通してまず突き当たる曲がり角に位置しています。(下図)

つまり、吸い込まれた空気中の異物をチェックするのに好都合な場所にあり、病原菌の進入を防ぐという生理的な役割があると考えられています。

▼アデノイドが問題になる場合って？

アデノイドが問題になる場合は病的に大きくなりすぎってしまった場合です。

アデノイドが生理的に増殖・肥大する時期や程度は個人差があり、何が原因で病的なまでに大きくなるのかはよくわかっていません。ただ、アデノイドはリンパ組織の塊で感染防御の役割を果たしているため、炎症を繰り返すことでより大きくなる傾向はあるようです。また、生まれつきの体質が関係しているともいわれています。

▼アデノイドが大きいとどんな症状が出るの？

①鼻症状

アデノイドの大きな塊があるために鼻の空気の通り道が狭くなり、鼻づまりが著しく口呼吸になります。

また、鼻声、いびきなども起こり、副鼻腔炎の原因にもなります。ひどい場合には眠っている間に呼吸が一時的に止まる睡眠時無呼吸が起こることもあります。

乳児期には鼻づまりが呼吸困難を生み、ミルクを飲むときに息苦しくなり、十分にミルクを飲めない哺乳障害、栄養障害の原因となります。

②耳症状

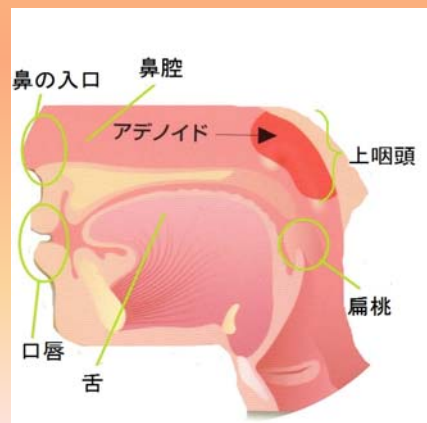
アデノイドのある上咽頭(下図)には、耳と鼻の奥をつなぎ、中耳腔(※注1)の気圧の調節を行っている耳管(じかん)という管が開口していて、肥大したアデノイドがこの耳管を圧迫することでその機能を妨げ、滲出性中耳炎を起こすことも多いです。

▼アデノイドの治療って？

残念ながらアデノイドを小さくする薬はありません。夜間のいびき、無呼吸による成長障害などの症状が出現していればアデノイドを取る手術を選択する場合があります。

また、アデノイドが大きいために滲出性中耳炎や副鼻腔炎を繰り返したり増悪させていると考えられる場合も同様に手術をする場合があります。

※注1 中耳腔……鼓膜の奥にある空洞。



アデノイドの位置



～ちょっと一言～こどものいびき

お子さんはいびきをかきますか？
子供のいびきの原因のほとんどはアデノイドと扁桃腺による鼻呼吸障害です。

鼻かぜなどによる短期間のいびきはそれほど問題ではありません。

しかし、数ヶ月以上、一晩中にわたる大きな苦しうないびきが続くようなら、よく調べる必要があります。



～患者さんへ大切なお知らせです～

- **8月1日から診療時間が変わります！**
当分のあいだ**土曜日を休診**とさせていただきます。
- **7月1日からWEB受付時間帯が変更になります。**
月～金の午前中はWEB受付はご利用できません。

～ご迷惑をお掛けして申し訳ありませんが
宜しくお願いたします～

診察時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	●	●	●	●	●	△
14:00～18:00	●	●	●	△	●	△